

2022年08月23日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【今週は、ジャクソンホール会議】

先週のコラムでも「ジャクソンホール会議」をテーマとして取り上げた。

その際に、「ジャクソンホール会議」とは何なのか、述べたが、再度、説明しておこう。

「ジャクソンホール会議」とは、米国のカンザスシティ連邦準備銀行が、ワイオミング州のジャクソンホールで、毎年夏に開く金融・経済シンポジウムのこと。

過去の例では、2010年8月に、当時のバーナンキFRB議長が、量的金融緩和第2弾(QE2)に踏み切ることを示唆する講演を行い、金融市場に影響を与えた。

今年(2022年)の「ジャクソンホール会議」は、8月25~27日に予定されている。

++++  
++++

マーケット(=市場参加者)が気にしているのは、過去のバーナンキFRB議長の講演のように、現在のパウエルFRB議長が今回の(今週行われる)「ジャクソンホール会議」で、米国の金融政策に関して、重要な発言をするのではないか、ということ。

++++  
++++

もともと「ジャクソンホール会議」は、恒例の行事であり、9月以降のFRBの姿勢が明らかになる可能性もあるので、大いに注目されていた。

++++  
++++

しかしながら、実際のマーケット(金融市場、外国為替市場など)を見ると、前回のFOMC(2022年7月26日、27日)の前後で、米国経済指標の中には、米国経済の悪化を示すものや、インフレが少し収まる傾向(=インフレのマイルド化)を示すものもあった。

そのため、このところの急激で大幅な米国の利上げが、縮小されるのではないか(=マイルド化するのではないか)、といった期待感が高まっていた。

++++

ここで一般論を言うと、  
「利上げは、株価を押し下げる傾向がある」  
「利上げは、債券価格の下落に直結する」

だから、マーケット（＝市場参加者）には、潜在的に「利上げを嫌う」といった傾向がある。

+++++

換言すれば、前回のFOMC（2022年7月26日、27日）の前後から、米国の急激で大幅な利上げが、収まって欲しい、という願望が、マーケット（＝市場参加者）にある（強くなっている）、ということ。

+++++  
+++++

ただし、大方の事前の予想では、  
「この講演で、パウエルFRB議長は、インフレ抑制のために、利上げを続ける旨の発言をするだろう」  
となっている。

※パウエルFRB議長の講演は、ワシントン時間8月26日午前10時（日本時間同日午後11時）に予定。

+++++  
+++++

以下のコメントは、前回のコラムと同じ。

米国の金融政策に関して、私見を述べておきます。

米国が、強烈に政策金利の引き上げを断行してきたので、一部のマーケット参加者から、その利上げのスピード（ペース）が緩むのではないか、といった声が出ています。

確かに、連続して0.75%の利上げが何度も実施されるとは思いませんが、今までの（今年に入って以降の）利上げ（利上げ幅）では、米国のインフレに対抗するには不十分である、と考えます。

つまり、9月以降も、米国は利上げを実施するであろう、と推測する、と同時に、さらに今後複数回にわたり、利上げを実施するであろう、と考えます。

換言するならば、1回あたりの利上げは、0.75%とか、1.00%のような大幅な利上げではなく、0.50%とか、0.25%のような小幅な利上げを、小出しにして（小分けにして）実施するのだろう、と予想しています。

それは、利上げのスピード（ペース）が緩むように見えますが、方向性としては、「金融引き締め」が維持され継続することを意味します。

米国の金利上昇は、まだまだ続く、と考えます。

+++++

次回のFOMC（2022年9月20日、21日）でも、0.75%の利上げの可能性が、十分にあることを付記しておきます。

+++++

+++++

（2022年08月23日東京時間15:25記述）